

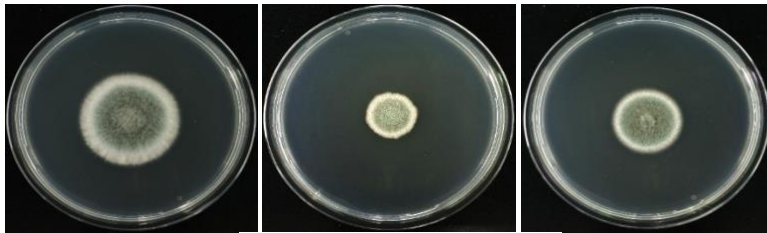
「見た目」に惑わされるな！カビ・キノコの正体、遺伝子で解明

私たちの身近には、数百万種以上もの「真菌（カビ・キノコ）」が存在すると言われています。食品を腐敗させたり、アレルギーや感染症を引き起こしたりする「厄介者」から、日本酒や味噌造りに欠かせない「功労者」まで、その顔ぶれは実に多彩です。しかし、これらを見分ける現場では、長年の課題がありました。

一般的にカビの検査では、培養して色や形を観察し、顕微鏡で微細な構造を見る「形態同定」という手法が主流です。この方法は比較的安価で、写真として記録に残るため分かりやすいという利点があります。しかし、専門家であっても「見た目だけでは特定しきれない」ケースが少なくありません。当社ではこの課題を解決するため、DNA 配列を読み解く「真菌遺伝子解析サービス」を提供し、より高精度な鑑定を実現しています。遺伝子解析が必要となる具体的な事例として、以下の2つが挙げられます。

1. 「同じ種類なのに見た目が違う」カビ

浸水被害を受けた住宅の建材から分離された下の写真のカビは、一見するとそれぞれ別種のように見えました。同じ種類でありながら色や形が異なる個体が混在し、さらに姿がよく似た近縁種もいたため、従来の観察だけでは正確な特定が困難でした。



全て同じ菌種の培養写真

2. 「違う種類なのに見た目が同じ」キノコ

住宅の室内から見つかるキノコの仲間（担子菌）は、多くが白い糸のような「菌糸」を伸ばすだけで、特徴となる孢子を作りません。そのため、下の写真のように全く別の種類であっても目視では区別が非常に困難な「白い塊」にしか見えないのです。



全て異なる菌種の培養写真

こうした形態同定の限界を、遺伝子解析は打ち破ります。DNA 配列を分析することで、見分けがつかない真菌も確実に種を特定することが可能です。当社の専門知識と技術は、研究開発や品質管理を強力にサポートいたします。精度の高い解析を通じて、カビに悩む企業・団体様の課題解決に貢献します。